

質的研究と量的研究を組み合わせたアプローチ: トライアンギュレーションについて

小澤 温 (筑波大学)

日本社会福祉学会第61回大会
若手研究者のためのワークショップ

方法間トライアンギュレーションの適応のポイント

研究デザインに関して

- ・ 研究対象に複数の方法論的アプローチが必要か？
- ・ 研究設問では研究対象の異なった側面、レベルに焦点をあてるものになっているか？
- ・ 研究対象に複数の理論的視角をもっているか？
- ・ 研究対象を理解する上で、異なったレベルの情報を集める必要があるのか？

研究設計条件に関して

- ・ 研究期間、研究体制でトライアンギュレーション使用の余力があるか？
- ・ 研究参加者 (協力者、調査対象者) への過度な負担になっているか？

注: 以上の適応のためのポイントは、「新版 質的研究入門 人間の科学のための方法論」、Uwe Flick著、小田博志監訳、春秋社、2011年による。

横山会員の調査研究について(1)

- ・ 研究対象に複数の理論的視角をもっているか？
- * TS者のLifeをどのように考えるのか
- * TS者の健康関連QOLは、Lifeにおいてどのように位置づけるのか
- ・ 研究対象を理解する上で、異なったレベルの情報を集める必要があるのか？
- * 先行研究の動向と今後必要な研究における5つのポイントにより、異なった観点での情報収集が必要なのか

横山会員の調査研究について(2)

- ・ 研究対象に複数の方法論的アプローチが必要か？
- * TS者の健康関連QOLの水準や社会生活の実態を定量的に明らかにする。→量的研究
- * TS者の経験する困難、希望、声を、当事者の視点から定性的に明らかにする。→質的研究
- ・ 量的研究の所見について
- * TS者の健康関連QOLの結果は、TS者固有の特徴なのか、(この結果における他集団ではない) (知的、発達障害等の) 他の障害者の結果とも異なるのかどうか

横山会員の調査研究について(3)

- ・ 研究対象に複数の方法論的アプローチが必要か？
- * TS者の健康関連QOLの水準や社会生活の実態を定量的に明らかにする。→量的研究
- * TS者の経験する困難、希望、声を、当事者の視点から定性的に明らかにする。→質的研究
- ・ 質的研究の所見について
- * 度重なる他者の否定的反応とそれによってもたらされる困難の諸相、の図式(モデル)は、半構造化調査の結果作成されたものか、半構造化調査の事前に作成し調査に臨んだものなのか。
- * 困難の諸相、規制による不利益などの結果は、量的研究でも裏づけられているか。

倉持会員の調査研究について(1)

- ・ 研究対象に複数の理論的視角をもっているか？
- * 「コミュニティカフェ」、および、「開発型ソーシャルワーク」の定義は、先行文献等による汎用的な定義、あるいは、研究者(倉持会員)による操作的な定義。
- * 定義に至るプロセスの説明が必要。
- * これらの定義に関して、コミュニティカフェ運営経験と訪問インタビュー調査(事前調査)の関連についての説明も必要。

倉持会員の調査研究について(2)

- ・ 研究対象に複数の方法論的アプローチが必要か？
 - * コミュニティカフェの基本情報、開設理由、スタッフのアプローチのタイプ別分析→量的研究
 - * 利用者、住民のコミュニティカフェに対する意識、受け止め、および、スタッフのアプローチの詳細な情報把握:事例調査→質的研究、一部量的研究
- ・ 量的研究の所見について
 - * コミュニティカフェの地域別分布の偏り、新たな研究課題へ→コミュニティカフェと地域特性との関係分析へ
 - * コミュニティカフェの運営、経営理念に関しての把握は→開発型ソーシャルワークという視点には重要ではないか

倉持会員の調査研究について(3)

- ・ 研究対象に複数の方法論的アプローチが必要か？
 - * コミュニティカフェの基本情報、開設理由、スタッフのアプローチのタイプ別分析→量的研究
 - * 利用者、住民のコミュニティカフェに対する意識、受け止め、および、スタッフのアプローチの詳細な情報把握:事例調査→質的研究、一部量的研究
- ・ 質的研究、一部量的研究の所見について
 - * この事例調査自体がさらなるトライアングレーションの構成を含んでいる。→系統的な整理にはかなりの労力が必要。
 - * スタッフは開発型ソーシャルワークを意識して実践していたのか、それとも、結果的に開発型ソーシャルワーク実践になったのか、の検討の必要性。

まとめ

- ・ トライアングレーションの適応のポイントを中心に2つの調査研究について検討した。
- ・ この2つの研究においては、単一の研究方法(量的研究、質的研究)を実施するよりも格段に、多角的な視点の総合的な考察の利点が生かされていると考える。
- ・ ただし、多角的な視点による総合的な考察のためには、異なった方法で得られた結果を考察でつなげていくためのストーリー構築が必要であり、かなりの時間と労力が必要とされる。